

ウコンノメイガ

○ 被害と発生生態

成虫は開長 25～30mm で淡黄褐色の蛾で、日中は葉裏などに潜み、主に夜間に活動する。幼虫は頭部・胴部とも淡緑色でやや光沢があり、老齢幼虫では体長は 22mm 程度になる。

幼虫はダイズ、インゲンマメなどマメ科植物を食害する。ダイズでは、幼虫が 1～数枚の葉を円筒状に巻き込み、その中で葉を食害し、そのまま蛹化する。巻いた葉の中から幼虫を取り出すと動作は敏しょうである。幼虫が多発生すると、ダイズでは莢数が減少したり小粒化して減収することがある。

山口県では年 2 回発生する。成虫は 7 月上旬～下旬にダイズに飛来・産卵する。幼虫による葉の加害は 7 月中旬に始まり 8 月中下旬にピークとなる。発生は山間部、山沿いのほ場で多くなる傾向がある。新成虫の羽化は 8 月中旬頃から始まり、8 月下旬～9 月上旬頃にピークになるが、これらはダイズには産卵せず、越冬地であるアカソやカラムシ等の雑草に産卵し、幼虫で越冬する。

○ 防除方法

(ア) 耕種的・物理的防除

- ・ 早期播種を避ける。
- ・ 多肥栽培を避ける。

(イ) 薬剤防除

- ・ 防除適期（7 月下旬頃の葉が巻き始めた初期）に防除を行う。
- ・ 8 月中旬以降の老齢幼虫～蛹期には防除効果が低い。



多発ほ場



被害葉



老齢幼虫



蛹